JR連合青年・女性委員会 第27回ユースラリー

JR連合青年・女性委員会 議長 李澤 亮汰

HIGH COMMUNICATIONS Do you?
～北海道から全国に発信～

ＪＲ連合青年・女性委員会は、２０２３年５月19日～21日にかけて、北海道札幌市において「第27回ユースラリー」を開催した。準備を進めるにあたっては、例年同様ご当地のＪＲ連合北海道地方協議会青年・女性委員会を準備機関としたほか、北海道の地での開催は２０１７年以来６年ぶりの開催であったことから、各地方から多くの準備委員を集め、有意義なユースラリーとすべく、入念に準備を行った。

コロナ禍の影響で、中止やＷＥＢを活用した形での開催としていたユースラリーも、新型コロナウイルスが第５類感染症に移行され、活発な青年・女性委員会らしさを取り戻した。昨年の大分での開催に引き続き「対面」での開催とし、全国から総勢１００人を超える青年・女性組合員が北海道の地に集結した。用意されたレクリエーションなどを通して、系統や単組の垣根を越え、濃密な関係を築くことができた。

多くの仲間に参加してもらうべく、数々の試行錯誤を繰り返してきたユースラリー

今回で27回を数えることになったＪＲ連合青年・女性委員会における「ユースラリー」の活動は、１９９６年にその歴史を遡る。同年８月３日に仙台の地で第１回を開催して以降、ＪＲ連合に集う多くの仲間と交流を図ることを目的に、今日まで開催してきた。当初は準備機関をエリア持ち回りとして開催してきたが、２０１３年からは準備段階からより多くの仲間との接点を増やすべく、地方協議会を準備機関として開催してきた。

開催形態についても、より多くの組合員に参加する機会を設けるべく、様々な試行錯誤を繰り返してきた。例えば、２０１９年の第24回ユースラリーにおいては、それまで定例化していた２泊３日での開催について、「もう少し短い日数の方が休みを取りやすく参加しやすい」との声を踏まえ、１泊２日に見直した。また、コロナ禍の２０２１年に行った第25回ユースラリーでは、各地のサテライト会場をオンラインで結び、エリア対抗でのレク大会を行うなど、制限のある中でも可能な限りの知恵を絞って、各地の組合員との連帯を深めてきた。

そうした中、２０２２年の第26回ユースラリーは大分県杵築市を中心に約３年ぶりの「対面」での開催をすることができた。

民主化を意識した北海道の地での開催 組織の拡大に向け大きな前進

２０１７年以来６年ぶりに北海道で開催することとなった「第27回ユースラリー」は、グループ労組の仲間を含めたＪＲ連合北海道地方協議会の青年・女性委員会を準備機関として準備を進めてきた。計５回の実行委員会を開く中で、前回６年前のユースラリーを経験したＪＲ北労組の青・女役員を中心に、様々な想定をしながら企画を練り上げた。

なかでも、民主化闘争をより多くの組合員に身近な問題として捉えてほしいという思いから、北海道出身の組合員をスタッフだけではなく参

加者にも多く配置し、チームの中での日常会話において、自然と民主化闘争の話題が出るように工夫を凝らした。

また、開催日程についても、前述したとおり、直近のユースラリーでは、参加者の声を踏まえて1泊2日としていたが、北海道の地でより多くの時間を過ごし、少しでも多く民主化闘争の実態に触れてほしいという思いから、2泊3日での開催とすることを決めた。

対面でのレクリエーションをとおして民主化当該単組組合員との繋がりを強化

参加者は、1日目、新千歳空港で集合した。北海道に来た経験がない参加者も多く、緊張と期待に満ちた表情が並んだ。バスで「札幌市青少年山の家」に移動し、大きな荷物を抱えながら開会式を行う講堂に移動した。

その後行われたアイスブレイクによって打ち解けた参加者は、チーム毎にジェスチャーゲームやチャンバラ合戦などの5つのレクリエーションに参画し、交流を深めた。

夕飯はレクリエーションで深めた絆を活かし、チームの仲間と美味しいカレー作りを行い、北海道ならではの少し肌寒い気候ではあったが、熱く親睦を深めた。

2日目は、チームで分かれ、札幌市を中心に、近隣の市にもまたがる形でウォークラリーを行った。各チームは、事前に抽選によって決められた、白い恋人パークや、開業したばかりのエスコンフィールドなどの観光地をはじめ、準備委員が用意した各チェックポイントを、少しでも多く周ろうと相談しながら交流を深めつつ、北海道を堪能した。

全チーム怪我無くゴールにたどり着いた後は、全体での大交流会を行った。レクリエーションとウォークラリーの結果発表もあり、1日目の緊張した雰囲気や表情は消え、大いに盛り上がった。

3日目は趣を大きく変え、三浦寛顕事務長（ＪＲ東海ユニオン）を講師として、ＪＲ7社の共通課題である「離職」をテーマに学習会を開催した。受講後は、「役員・組合員の一員として魅力ある労働組合・会社を創り上げていくためにできること」についてチーム毎でディスカッションを行った。それぞれ労働条件や労働環境、地域性や労使関係が異なる参加者同士であったため、多様な意見が飛び交う有意義な場となった。

閉会式では、事務局がサプライズで用意した、ユースラリー中の写真を繋いだムービーが上映され、濃密な3日間を振り返った。

ユースラリーで得た経験と培った人間関係を活かし出身組織での活動に取り組む

閉会式に参加したＪＲ連合荻山市朗会長は、準備委員に感謝を述べつつ、「このユースラリーで得た経験や、培った人間関係を忘れず、出身組織に持ち帰り、日頃の活動に活かしてほしい」と挨拶を行った。

参加者からも「また今後も絶対に参加したい」「ＪＲ連合以外の他労組が多数を占める現状を何とかしたいと思った」などの声が聞かれた。

ＪＲ連合青年・女性委員会は、基本組織とともに、ＪＲ北海道に入社する新入組合員に向けて、ＪＲ連合・ＪＲ北労組への加入促進行動をここ数年特に力を入れて行っている。ＪＲ連合青年・女性委員会は、引き続き、若い組合員にとって魅力的なＪＲ連合運動を内外に向けて発信していく。